

平成27年度

利用案内



青森県立種差少年自然の家

〒031-0841

八戸市鮫町字膳並平2-26

TEL 0178-38-2131

FAX 0178-38-2727

ホームページ

教材斡旋価格一覧表

平成27年4月1日現在

	プログラム名	経 費 [消費税込み]	
2	星空のつどい	講師料(1名) 5,000円 利用者80名以上は2名依頼	
3	種差の植物観察	講師料(1名) 1,000円	
6	タイヤチューブいかだ	監視船借上料 単独校利用で1~2艇 10,000円	
7	スチロバールいかだ	3~10艇 20,000円	
15	火おこし	1セット 330円 (2~6人グループ)	
23	フライパンピザ	粉(500g) 120円(8枚分) 屋外用燃料セット(炭1.88kg、まき) 550円 屋内用卓上カセットコンロボンベ 使用料1本30円	
25	葉っぱのしおり	1セット 30円	
26	焼板クラフト	杉板1枚並60円、大90円、まき1束100円	
27	竹けん玉	1セット 130円	
28	竹とんぼ	1セット 50円	
29	ぐにゃぐにゃ凧	1セット 110円	
30	シュリンクシートのストラップ	1セット 120円 (シュリンクのみ90円)	
31	ネイチャーストラップ	1セット 30円	
32	割りばし鉄砲	1セット 10円	
33	どんぐりアート	1セット 35円	
34	石ころアート	1セット 60円	
35	貝がらアート	1セット 35円	
36	動物マグネット	1セット 35円	
38	せんべい焼き ※燃料セットは焼きいもの活動でも使用できる	せんべい粉(500g) 120円(約20~25枚) 屋外用燃料セット(炭3.75kg [1/4箱]、まき) 1,100円 屋内用卓上カセットコンロボンベ 使用料1本30円	
39	こまの絵付け	木ごま1セット 170円 (白木のこまとひものみ156円)	
41	キャンドルファイヤー	ろうそく	小1本20円、大1本230円
	キャンピング等	束まき	1束100円
		卓上カセットコンロボンベ	使用料50円
参 考	八幡馬の絵付け	1セット 970円 (白木と毛のみ940円)	
	海藻のしおり	1セット 10円	
	ミニえぼしづくり	1セット 350円	

(業者からの斡旋価格になりますので、年度途中で価格が変更になる場合があります。)

野外炊事セットメニュー ※6人分の米を含む、()は米持参 (詳しくはご相談ください)	ポークカレー	1,110円	(920円)
	さば缶カレー	1,050円	(860円)
	浜カレー	1,330円	(1,140円)
	豚汁	1,170円	(980円)
	せんべい汁	1,110円	(920円)
	焼そば	1,470円	



も く じ

	ページ
教材幹旋価格一覧表……………	表紙裏
1. 利用にあたって……………	2
2. 利用当日までの流れ……………	4
3. 事前打合せ……………	5
4. 日程や活動の編成・事前研修・実地踏査……………	5
5. 基本的な生活の流れ……………	6
6. 活動時の留意点……………	8
7. 入浴……………	8
8. 食事……………	9
9. 宿泊室の利用……………	10
10. 清掃・ごみ処理……………	11
11. 健康と安全……………	13
12. 緊急時の対応……………	13
13. キャンピング……………	14
14. 活動プログラムの指導・安全について……………	15
15. 活動プログラム一覧……………	18
16. 館内活動プログラム実施場所と人数一覧……………	20
17. 貸し出し可能な主な物品・設備……………	22
18. 周辺地図……………	23
建物平面図……………	24

1. 利用にあたって

種差少年自然の家の目標

少年たちが、豊かな自然の中でのびのびと体験活動することにより、自然と人間とのかかわりを理解しながら、生きる力を養うことをめざす。

利用できる団体

引率者の指導のもとに集団宿泊訓練、自然体験活動、生活指導、学習合宿、クラブ活動合宿、研修等で利用する次に掲げる団体。

- (1) 各種学校（幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）
- (2) 少年団体（子ども会、児童館、PTA、ボーイスカウトやガールスカウト等）
- (3) 教育委員会等が行う社会教育に関する事業での利用団体
- (4) その他所長が認める団体

以下の条件を満たすこと

- ①少年自然の家の設置目的に合った活動する団体
- ②集団宿泊訓練、自然体験活動、生活指導等に係る指導者の養成や研修をする団体
- ③生涯学習の観点にたった活動をする団体（成人団体を含む）

※次に掲げる場合は利用できません。

- ・ 宿泊のみの利用
- ・ 営利を目的とした利用
- ・ 特定の宗教活動又は政治活動を目的とした利用

指導者の立場

自然の家利用中は、原則として活動プログラムや生活指導は引率者が指導することになります。詳しくはP15「14. 活動プログラムの指導・安全について」をご覧ください。

利用上の注意

- ・ 基本時間に沿った生活と、利用した場所の清掃・整頓をお願いします。
- ・ 内履きを準備してください。
- ・ 日帰り利用での食事や、宿泊初日の昼食は提供できません。（ただし、10月～3月の利用であれば、日帰りでの利用の食事や、宿泊初日の昼食提供が可能な場合があります。）
- ・ 花火をする際は、打ち上げ花火・ロケット花火等火事につながる恐れのあるものは禁止です。
- ・ コピー機の利用はできません。印刷物などはあらかじめご用意ください。
- ・ 館内での飲食は基本的に禁止となっております。飲食に関する疑問・質問は、日程作成時にご相談ください。なお、自動販売機は置いておりません。
- ・ 飲酒はできません。
- ・ 喫煙は、喫煙場所でのみお願いします。
- ・

利用できる日

◎通年

- ・ ただし、年末・年始（12月29日～1月4日）及び、所長が休所と定めた日を除きます。
- ・ 4月1～7日まで、年度始めの食堂整備等のため食事の提供はできません。

経費

項 目		金 額
宿泊代・施設使用料		無 料
食 費※1	朝食370円、昼食390円、夕食400円	1日3食 1,160円
洗濯代	館内（シーツ、枕カバー）	159円
	テント泊で当所の寝袋使用時（シーツのみ）	144円
教材費※2		表紙裏の 幹旋価格表参照

※1 食事数の変更は、土・日・祝日を除く利用開始4日前の午前中まで可能です。
（この日を過ぎると食材発注をしますので食事数の変更はできません。）

※2 活動内容によっては別途教材費がかかります。

支払い方法

食 費	郵便局の口座振込（手数料不要・振込用紙はお渡しします） ※利用後10日以内にお振り込み願います。 ※金額が10万円以上の場合、身分証が必要となります。
洗濯代	
教材費	

宿泊室

宿泊室収容人員			
1階	101～102	3名×2室	6人
	103～107	8名×11室	88人
	109～114		
	108号室	リーダー室	5人
2階	201～207	8名×13室	104人
	209～214		
	208号室	リーダー室	5人

※101・102は車椅子利用者対応室です。リーダー室としても使用可能です。

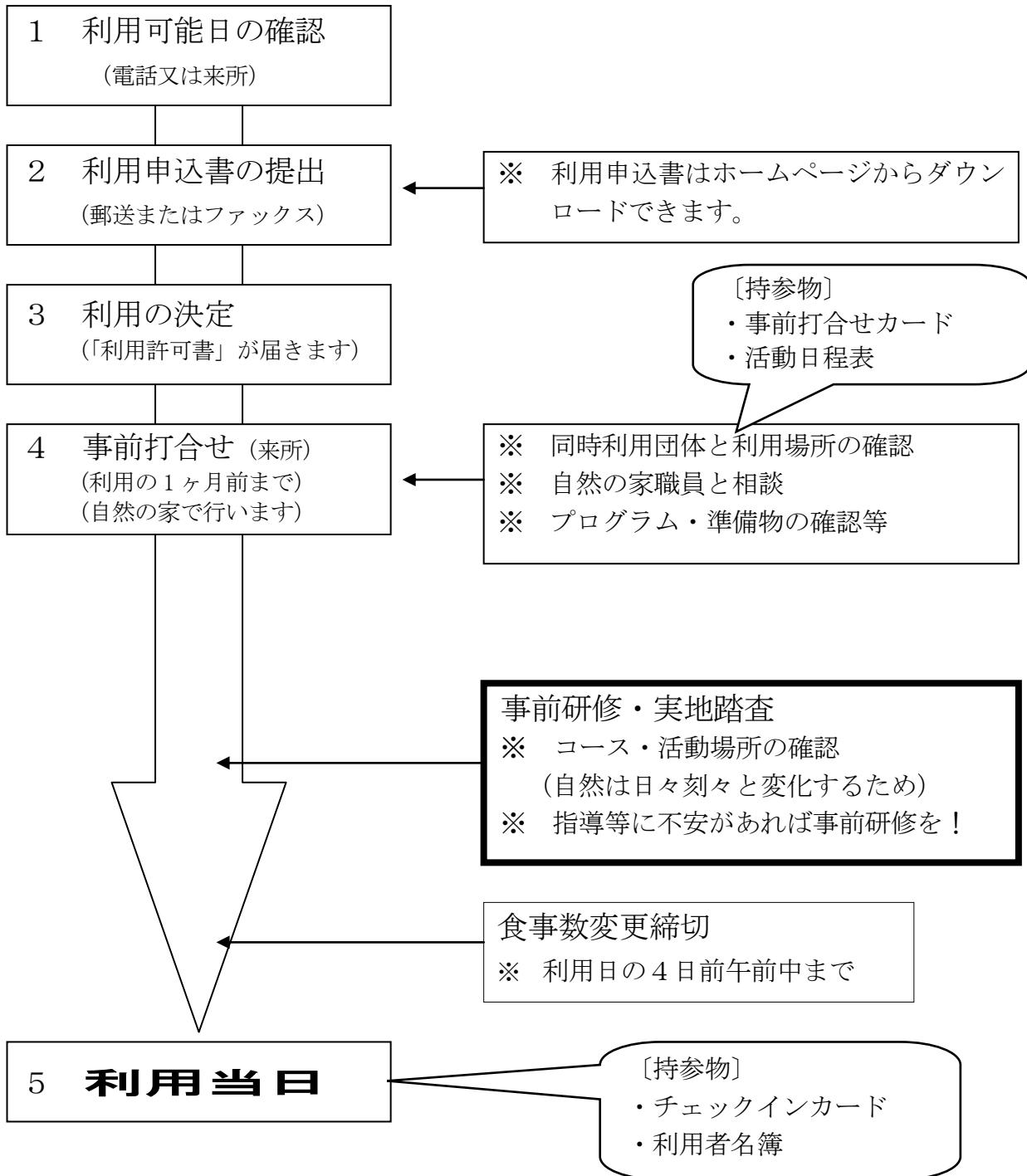
テント泊

テント別 収容人員		
常設テント（設営・撤収の必要なし）	5名程度×13張	65人
ドームテント（自分たちで設営・撤収）	4名程度×15張	60人
宿泊者数合計		125人

※常設テントの設置期間は5月中旬から10月中旬です。

※テントや寝袋（シュラフ）の持ち込みも可能です。

2. 利用当日までの流れ



<利用のキャンセル・期日変更の場合>

できるだけ早く電話でご連絡ください。

その後、「利用取り消しについて」「利用日の変更について」の文書を提出してください。(郵送またはFAX) ※文書はホームページからダウンロードできます。

3. 事前打合せ

利用団体の引率の方々が、利用目的や活動のねらいを効果的に達成するために欠かすことのできないのが「事前打合せ」です。安心して利用できるように必要な事項を確認しておきましょう。

<事前打合せの内容>

- ① 利用目的の確認
 - ② 利用人数（食事の回数と人数）
 - ③ 活動内容（活動プログラム）
 - ④ 生活時間にかかわる相談・確認
 - ⑤ 使う道具、活動場所、教材等の確認
 - ⑥ 使用する宿泊室
 - ⑦ 使用するくつ箱
 - ⑧ 清掃分担
 - ⑨ 食事（セルフ方式の利用方法、アレルギー対応等）
 - ⑩ 同時利用団体との調整
 - ⑪ 事前研修・実地踏査
- その他（特に相談しておきたい事項等）

<利用団体が複数の場合の調整>

- ① 活動場所、使用する道具等の調整
- ② 活動プログラムの調整
（荒天時の活動も含めて）
- ③ 入浴時間、食事時間の調整
- ④ 起床、消灯時刻の調整
- ⑤ 清掃分担、くつ箱の割り当て、
部屋割り等
- ⑥ 各つどいの持ち方
（次第、担当、場所、歌等）

※ 入所時刻が同じ場合は、原則として入所式を合同で行います。

4. 日程や活動の編成・事前研修・実地踏査

日程や活動の編成

利用目的を達成するために「適した時間帯」に「ふさわしい活動」を設定することが大切です。P18「15. 活動プログラム一覧表」を参考にしてください。自然の中での活動では、計画通りいかない方がむしろ多いものです。活動内容を欲張らずに時間的な余裕を十分とるようにしましょう。ゆとりのあるプログラムを組むことで、利用目的に近づくための活動後のふりかえりや柔軟なプログラム変更ができます。

事前研修

いかだ活動・アドベンチャーゲームなどの活動プログラムによっては、事前研修が必要になります。また、活動プログラムの指導に不安がある場合は自然体験活動研修会に参加するか、来所して事前研修をしておけば安心して指導することができます。早めに職員にご相談ください。

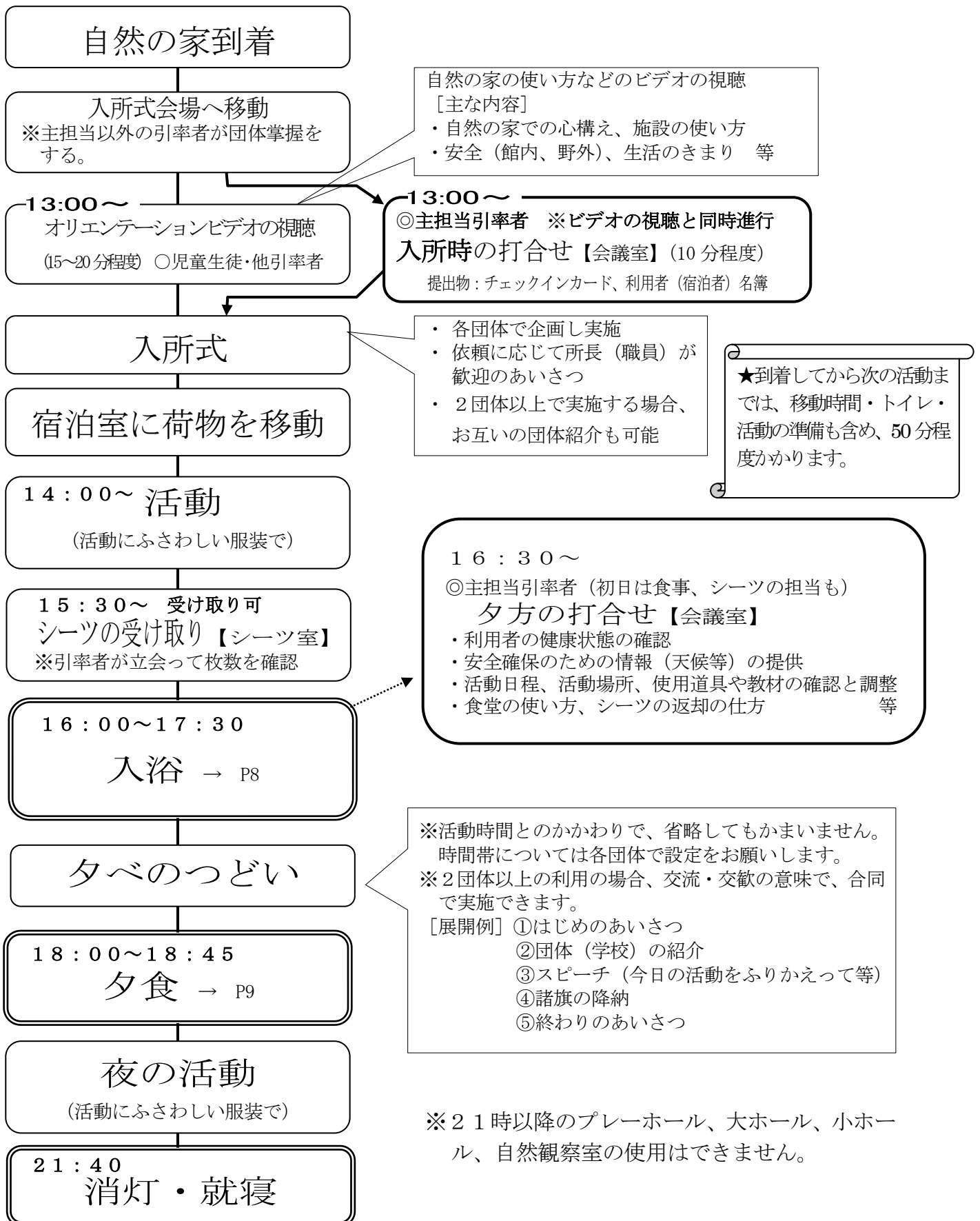
実地踏査

引率の方々が活動内容や活動場所（野外コース等）を事前に確認しておくことは、安全を確保するために大変重要なことです。自然環境、社会的環境（道路・交通状況、海岸の整備状況等）は絶えず変化していますので、なるべく利用日に近い日に実地踏査することをおすすめします。既存のコースではなく、団体独自のコースを設定するのであれば、実地踏査は欠かすことができません。野外には絶対に安全な場所というのはありません。基本的な安全指導を事前に実施しておきましょう。

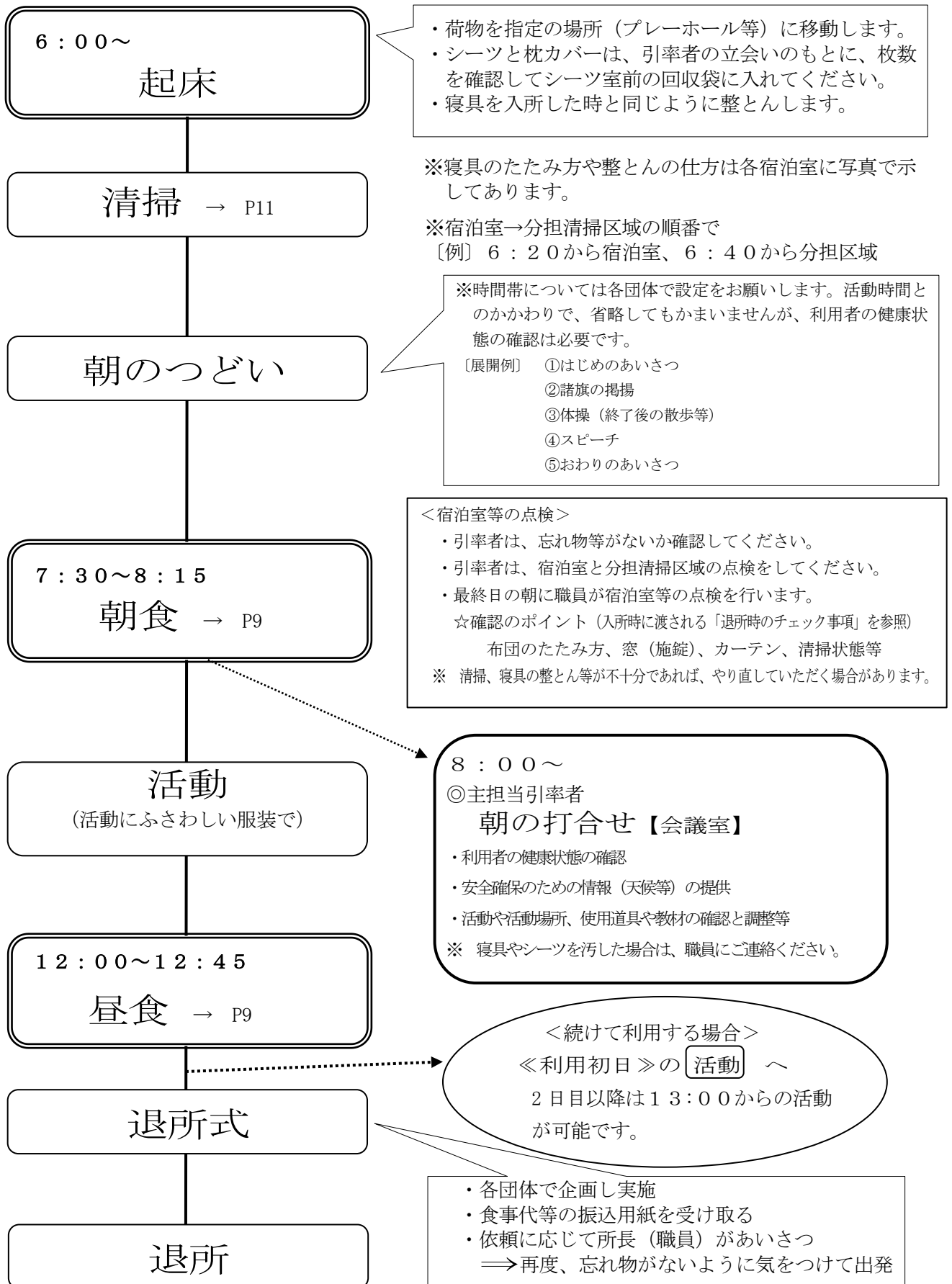
5. 基本的な生活の流れ

《利用初日》

※昼食持参、入所は13:00が原則



《利用最終日》



6. 活動時の留意点

活動前

- ・宿泊室の窓を閉め、電灯を消してから活動に移ってください。
- ・自然の家を離れて活動する時は、自然の家職員と連絡を取るために無線機を貸し出します。

活動中

- ・安全確保のため、引率者の指導する位置、活動にふさわしい服装、道具の扱い方等には十分な注意を払ってください（P15 参照）。

活動後

- ・次に使う利用者のために、活動場所の後片付けを確認してください。
- ・利用者の人数や体調の確認を必ずしてください。

7. 入 浴

☆みんなが気持ちよく使えるように心がけてください。

入浴時間

- ・16:00~17:30（追い炊きができない浴槽ですので、この時間にご利用ください。）
- ・いかなだ活動をする団体は15:30からの利用となります。

人数

- ・一度に各浴室（男女別）30人ぐらいの利用が可能です。
※入浴者数の合計が50人未満の場合、浴室は一つだけの利用となります。

持ち物

- ・入浴道具（石けん、シャンプー、タオル等）を各自で準備してください。

洗面器・いすの積み方

- ・洗面器といすは2列に積んでください。



清掃

- ・朝の清掃時間に行います。
- ・洗剤は薄めてありますので、1本以上使ってください。
- ・排水溝の髪の毛、浴槽の側面、脱衣所の清掃を特に入念に行ってください。
- ・清掃や整頓が不十分な場合は、次に使う人のためにやり直していただく場合があります。

8. 食 事

☆自然の家は「セルフ方式」の食堂です。食事の開始・終了時刻は守ってください。

食事の時間

	食事時間
朝食	7:30～ 8:15
昼食	12:00～12:45
夕食	18:00～18:45

座席数 194席 (8人掛け×23テーブル+10人)

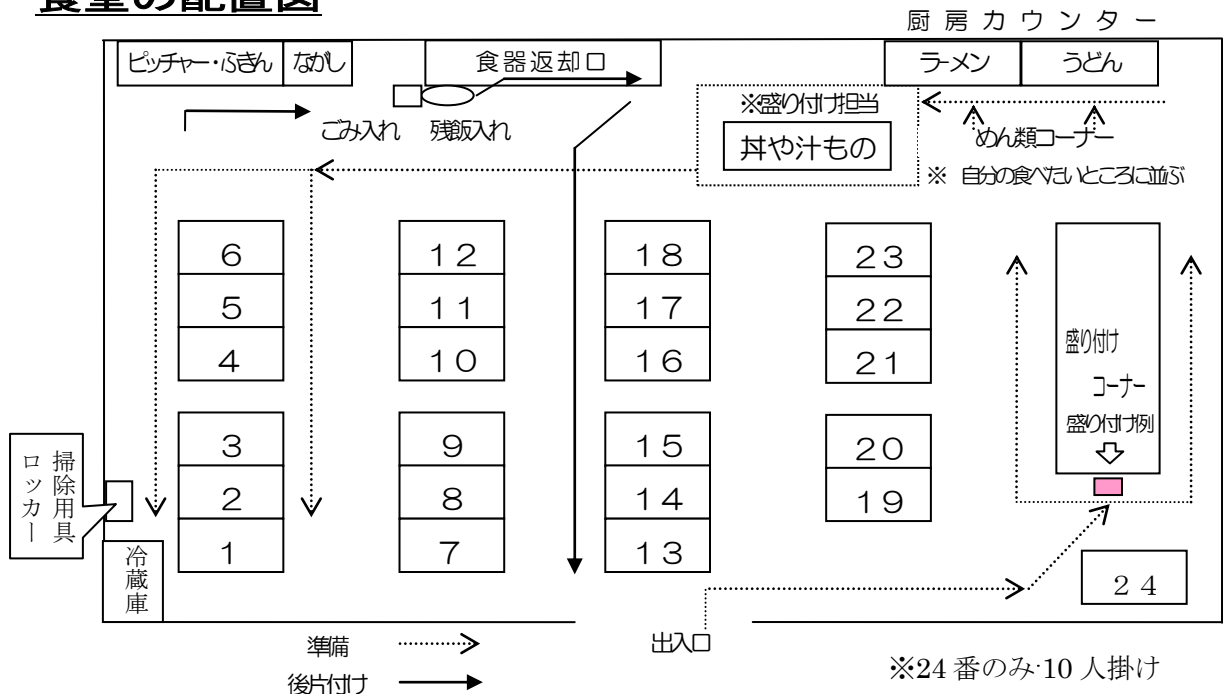
食事指導について

- ・食事の前は、宿泊棟の洗面所で必ず石けんをつけて手を洗ってください。
- ・食堂で提供した食べ物は、食堂外へ持ち出さないでください。
- ・最初は決められた数や量を守って盛り付けてください。
(引率の方に丼や汁ものの盛り付けをお願いしております。)
- ・テーブルごとにあいさつをして、温かいうちに食べてください。
- ・おかわりは同時利用団体も含め、全員の盛り付けが終わってからになります。
- ・後片付けは、ごみ、残飯、食器を決められた場所に返却してください。

<食事係の仕事>

- 食事5分前の準備 : ふきん、ピッチャー(水差し)をテーブルにセットします。
 食事後の後片付け : ①テーブルをきれいにふき、ふきんを洗って返します。
 ②ピッチャーを食器返却コーナーへ返します。
 ③床のそうじをします。
 ④テーブル、いすの整とんをします。

食堂の配置図



その他

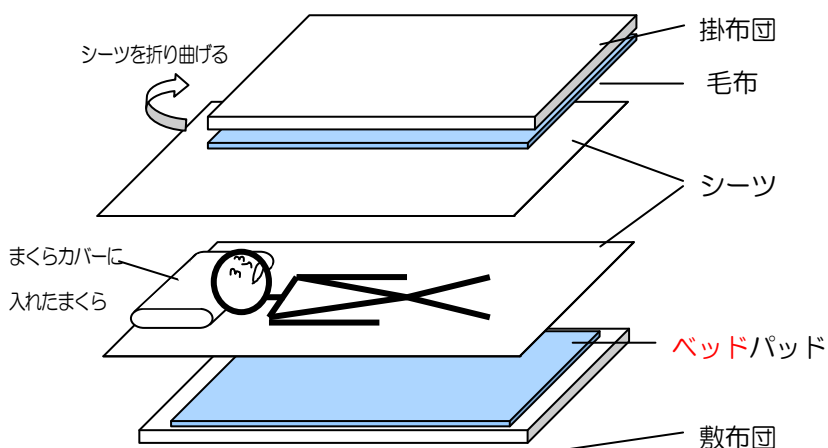
- ・嘔吐物処理の道具は掃除用ロッカーの上にあります。使用の際は必ず職員にご連絡願います。
- ・ぞうきんは出入り口にある手洗い場で洗うようにしてください。
- ・種差漁港での昼食(浜カレー)提供ができますので、ご相談ください。(原則として終日自然の家を離れての日程を計画した場合。)

9. 宿泊室の利用

☆寝るための準備（ベッドメイキング）や清掃、布団の整理整頓等は利用者が行います。

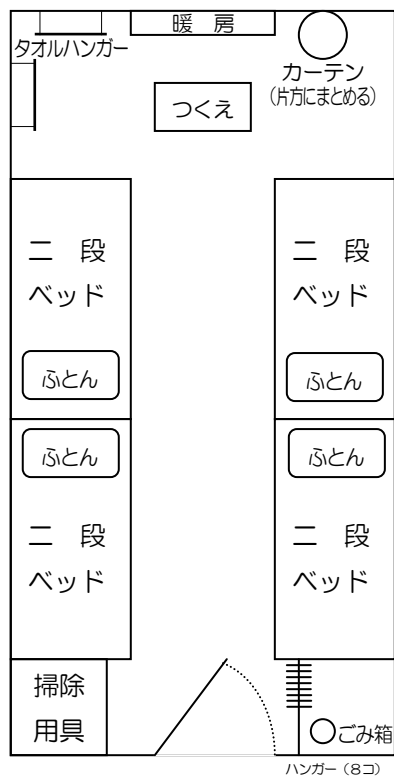
ベッドメイキング

1人につきシーツ2枚と枕カバーを使用します。



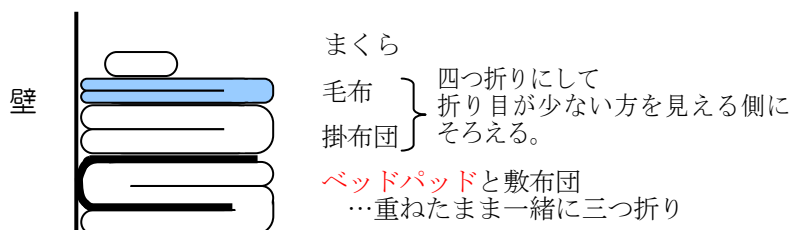
※ シーツとシーツの間に寝ます。

<宿泊室略図>



時期によってふとんを置く位置が変わります。詳しくは、入所後のオリエンテーションでお話します。

<ふとんの整頓の仕方>



宿泊室について

- ・衛生上から宿泊室での飲食は禁止です。
- ・暖房機のダイヤルや火災感知器にはさわらないようにしてください。
- ・網戸は必ず閉め、虫の侵入をふせいでください。
- ・ぬれたものは入り口に置き、畳の上には置かないでください。
- ・部屋の整理整頓を心がけてください。
- ・宿泊室内でドライヤー等の電気器具を使うことはできません。

就寝時について

- ・各宿泊室の照明のメインスイッチは、リーダー室(108・208)にあります。
- ・消灯後は静かにし、他の団体の迷惑にならないようご注意ください。

シーツ、枕カバーの配布・返却について

※ 引率者が必ず立ち会ってください。

- ・配布…15時30分以降に、1階シーツ室から各部屋に運びます。
- ・返却…最終日の朝、1階シーツ室前の緑色の回収袋に入れます。

10. 清掃・ごみ処理

☆「来たときよりも美しく」次の利用者が気持ちよく使えるように心がけてください。

清掃について

使用後に毎回清掃	食堂
使用後または朝の清掃時間(どちらか1回)	プレーホール、大ホール、小ホール、自然観察室 くつ置き場(できれば退所時がよい)
朝の清掃時間 (※必ず掃除する場所)	宿泊室、トイレ、洗面所、浴室、廊下、玄関ホール

- ・最終日の宿泊室の清掃は、荷物をプレーホール等へ移動してから行ってください。
- ・各場所の清掃方法は、掃除用具入れに掲示してあります。
- ・宿泊棟で掃除機を利用する際、コンセントは廊下にありますので延長コードを使用してください。
- ・廊下用の大きい掃除機は、各階の廊下用掃除ロッカーの脇及びリーダー室にあります。
- ・トイレの汚物は、燃えるごみと同様に処理してください。

ごみ処理について

- ・利用団体が持ち込んだごみは、基本的に持ち帰ってもらいます。引率者でごみ袋等をご準備ください。
- ・館外のごみ置き場に捨ててもよいごみがあります。その場合、引率者にごみ袋に集め、館外のごみ置き場に捨てます。区別は表の通りです。

ごみ置き場に捨ててもよいごみ	・初日の昼食時に出た手作り弁当のごみ ・活動で出たごみ
ごみ置き場に捨てられないごみ	・外注の弁当容器・缶類 ・大量に持ち込んだペットボトル 等

- ・朝の清掃時間に出たごみは、分別して玄関ホールのごみ箱に入れてください。
- ・朝の清掃後には宿泊室のごみ箱を空にしてください。
- ・玄関ホールのごみ箱がいっぱいになったら、引率者にごみ袋の取り替えをし、ごみは館外のごみ置き場に捨てます。(替えのごみ袋はリーダー室、又は玄関ホールの分別ごみ箱の中にあります。)

1 1. 健康と安全

☆自然の家には、病気やけがに対応する看護職員は配置されていません。

利用前

- ・食物アレルギーのある場合は、事前にご相談ください。
- ・事前に、子どもたちの健康状態を把握しておいてください。
- ・健康保険証（コピー可）と、持病のある方は常備薬をご持参ください。
- ・救急薬品等は利用団体でご用意ください。
- ・緊急用として、乗用車を用意することをおすすめします。

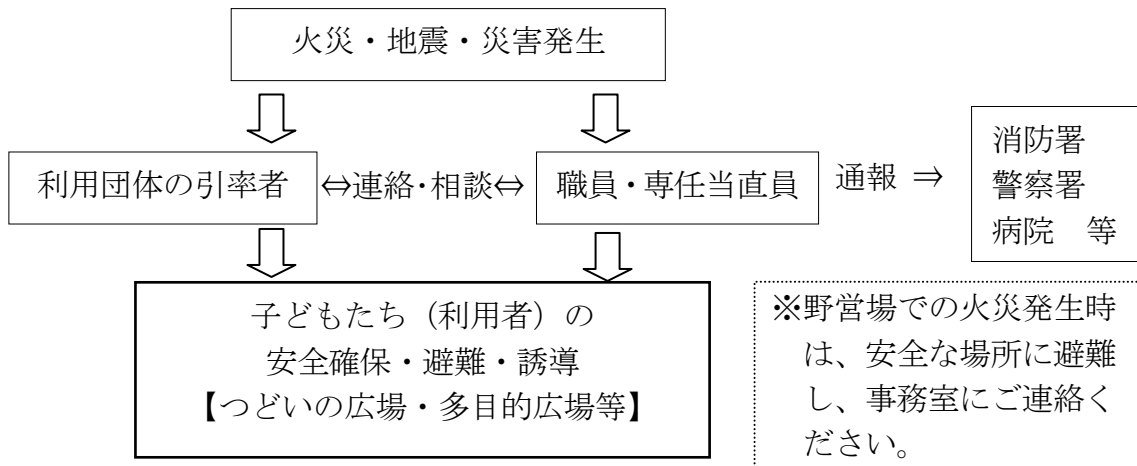
利用期間中

- ・野山では肌を露出しない、磯辺では裸足にならない等、引率者は十分な安全指導を行ってください。
- ・火を扱う活動では、長袖・長ズボンを着用するよう指導してください。
- ・熱中症予防のため、体温調整や水分補給等の対策をしてください。
- ・危険な動植物（スズメバチ、ヘビ、蚊、ウルシ、ダニ等）には十分注意してください。
- ・AED（自動体外式除細動器）は、玄関ホール事務室受付窓口の下側に設置してあります。※いかだ活動には移動用AEDを携帯してもらいます。
- ・健康上の理由で活動に参加せず館内に残る人がいる場合は、引率者が付き添ってください（職員にも連絡をしてください。また、連絡板へ記入もしてください）。
- ・医務室で休養もできますが、ご利用の際には必ず引率者が付き添ってください。
- ・「おう吐物処理セット」を1階・2階の洗面所、医務室、食堂に準備していますので、おう吐者があった場合には利用してください。おう吐があった場合は、職員に必ず連絡をしてください。
- ・おう吐処理は引率者に行っていただきます（2次感染防止のため）。

1 2. 緊急時の対応

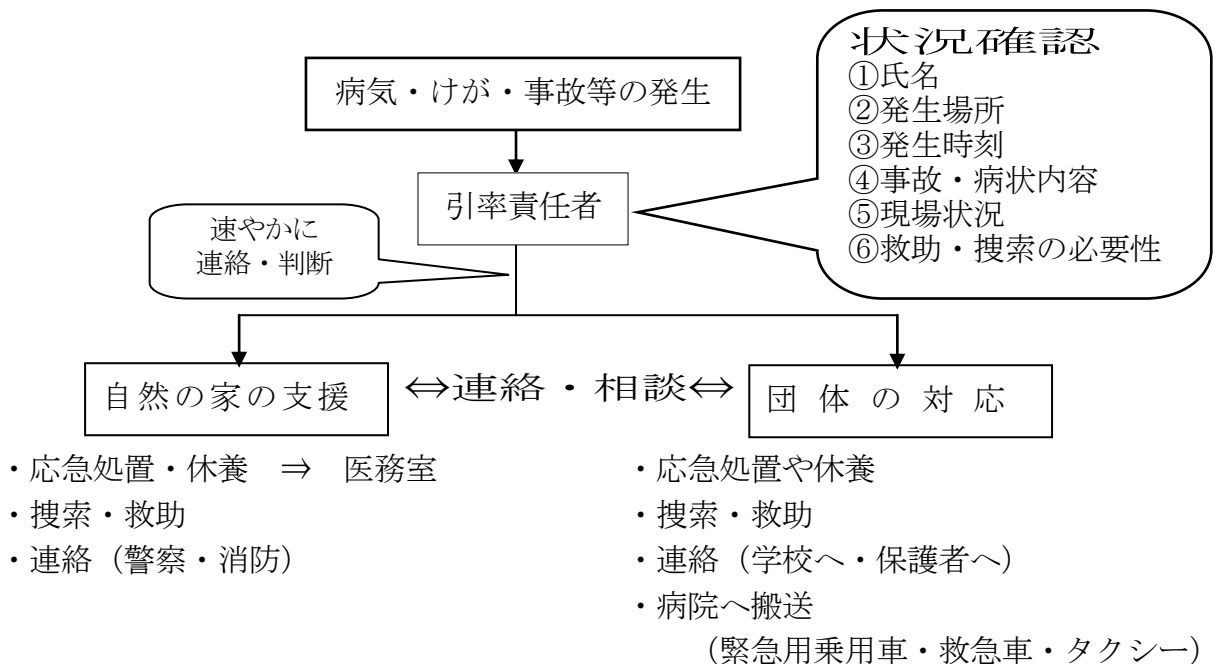
火災・地震等、避難が必要な場合の対応

- ・火災、地震等に備え、非常口や消火器の位置、避難経路・避難場所を事前にご確認ください。（宿泊室には避難経路を掲示しています。）
- ・日中に火災や地震などの災害が発生した場合は、当所で指示をしますので、引率者はその指示に従い、利用者の掌握と安全確保に万全を期してください。
- ・夜間に災害が発生した場合は、専任当直員に連絡するとともに、引率責任者の判断で安全確保を図って避難してください。



病気・けが・事故等の対応

- ・病気やけが、事故等が発生した場合は、直ちに事務室、又は付近の職員へご連絡ください。（日中は職員、夜間は専任当直員が対応します。）
- ・傷病者が病院にかかる場合、搬送は各団体で行っていただきます。（重いけがの場合は、救急車搬送の対応をお願いします）
- ・ノロウィルスやインフルエンザ等の疑いが発生したら、隔離・保護者への迎えの要請等の対応が必要となります。利用を途中で中止しなければならない場合もあります。



<緊急時の連絡先>

- ◎ 休日・夜間診療所 0178-22-2277
(19時～23時 日曜・祝祭日は12時～23時)
- ◎ 八戸消防本部救急医療情報 0178-24-3999
※ 最寄りの病院については職員にご相談ください。

13. キャンピング

宿泊

- ・ 1日目館内泊、2日目テント泊という利用もできます。
※1日目テント泊、2日目館内泊の場合は、シーツを交換すれば可能です。詳しくは、ご相談ください。
- ・ キャンプ用品、炊事用具を貸し出すことができます。(P22 参照)

食事

- ・ 自炊が原則になります。食材も各団体で用意することになりますが、野外炊事のセットメニューの食材を配達してくれる業者を紹介できますのでご相談ください。
- ・ 館内の食堂で食事をとることもできます。

風呂・シャワー

- ・ 風呂の利用も館内利用と同じように利用できます。
- ・ シャワーの利用であれば夜の活動後でも可能です。ご相談ください。

清掃

- ・ 流し台と調理場は毎食後、掃除してください。それ以外の場所は最後に掃除してもかまいません。ただし、整理整頓を心がけてください。
- ・ 詳しい清掃方法はそれぞれの場所に掲示してあります。

ごみの処理

- ・ 調理にかかわったごみ以外のものは、持ち帰ってください。調理に関わるごみと残飯は、持参したごみ袋をポリ容器にセットし、水気を切って分別して捨ててください。終了後、食堂裏手のごみ置き場に運んでください。
- ・ 残飯等の生ごみは（燃えるごみに分別）、できるだけ少なくするようにご協力ください。

緊急時

- ・ 雷雨、台風などで野外での活動が危険であると判断された場合は、プレーホールに避難していただきます。なお、その場合の炊事はカセットガスのコンロを利用することができます。

安全

- ・ 食中毒防止のために衛生管理に十分気をつけてください。
- ・ 暗闇での安全な活動のために灯りを確保してください。
- ・ 火や刃物の扱いには十分に気をつけてください。

その他

- ・ 館内が空いていれば、館内での活動も可能です。ただし、館内泊団体が優先になりますので、荒天時の活動も外での活動を考えておく必要があります。
- ・ 借りた用具の後片付けや撤収に時間がかかります。活動時間に余裕を持ちたいのであれば、用具の持参や外注弁当の利用をおすすめします。
- ・ カラス等の動物のいたずらがあります。食材やごみの管理に気をつけてください。
- ・ 各団体で持参しなければならないものもありますので、当施設ホームページの「活動プログラム」を参考にしてください。

14. 活動プログラムの指導・安全について

【プログラムの指導にあたって】

プログラムの詳細につきましては、当施設のホームページの「活動プログラム」からダウンロードしてご活用ください。

プログラムの指導は、原則として引率者が行います。そのため事前研修や実地踏査が必要になります。

しかし、引率者が指導するには難しいプログラムもあるので、自然の家の職員はその助言にあたります。

○自然の家職員が必ず支援に入るプログラム（安全の確保のため）

※ただし、自然の家職員は実技支援のみで、全体掌握や生徒指導は引率者が行います。

- ・ タイヤチューブいかだ
- ・ スチロバールいかだ
- ・ せんべい焼き
- ・ スノーチューブすべり

○依頼があれば支援に入ることのできるプログラム

※ただし、自然の家職員は実技支援のみで、全体掌握や生徒指導は引率者が行います。

- ・ 火おこし
- ・ アドベンチャーゲーム
- ・ ネイチャーゲーム
- ・ 焼きいも
- ・ フライパンピザ
- ・ キンボールスポーツ
- ・ 森探検

☆夜の活動（19：00～21：00）に対する支援はできません。

☆参考プログラムとは

活動の時間や材料などに制約があるプログラムです。利用したい場合はご相談ください。

【野外活動に適した服装】

服装

- ・ 帽子、手袋（軍手）
 - ・ 野外に出る時は、長袖、長ズボン（虫刺され、かぶれ対策のため）
 - ・ 上着は簡単に重ね着がしやすいもの（不要な時はリュックに）
 - ・ 靴は履きなれた運動靴
- ※ シャツ及び下着は化繊のもの（綿100%は汗が乾かないので不向き）

携行品

- ・ リュックは背負いやすく機能的なもの
- ・ 雨具は、上下セパレートのもの
- ・ 水筒、ハンカチ、タオル、ティッシュを携帯

その他

- ・ 虫除け対策（冬季間以外は準備しておくことをお勧めします。）
- ・ 着替え、寒さ対策



【フィールドマナー】

私たちは、自然の中におじゃましています。自然に対してローインパクトな活動に心がけましょう。

※ローインパクトとは、自然にやさしくすることです。それが、自然に対してやさしい人、ひいては心のやさしい人を育てることにつながります。

- ・ ごみのポイ捨ては厳禁です。全て持ち帰りましょう。
- ・ 動植物の採集は控えましょう。そこにある美しさはそのままにしておきましょう。
- ・ 観察・調査のために採集した昆虫や魚などは、生きたまま放しましょう。
- ・ 植物を傷つけたり、岩場等に落書きをしたりしないようにしましょう。
- ・ 動物にえさを与えないようにしましょう。
- ・ 静かに活動しましょう。動物たちが驚きストレスを感じます。
- ・ 田畑などの私有地へ許可なく入ったり、地元の人や周囲の人に誤解やストレスを与えたりするような行為はやめましょう。

※ 喫煙者は、携帯用吸殻入れを持参しましょう。歩行中の喫煙は厳禁です。

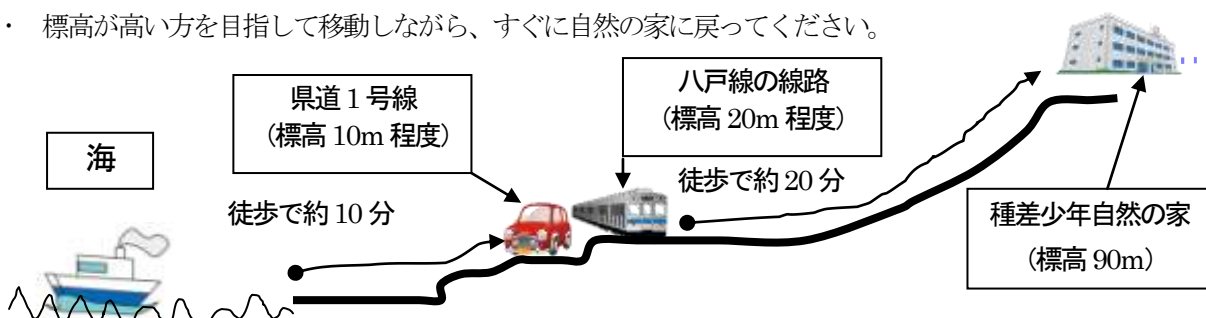
【地震の場合】

【海にいるとき】

- ・ 近くに崩れるもの（岩やガケ）がない場所に静かに移動し、収まるまで待ちましょう。
- ・ 津波が予想される場合は、地震が収まったら道具などは放置し、速やかに標高が高い方を目指して移動してください。（県道1号線は標高10m程度、八戸線の線路が標高20m程度）
- ・ 標高10m以上の場所で人数を確認後、無線連絡をしてすぐに自然の家に戻ってください。

【森の中にいるとき】

- ・ 頭上に落ちてくるもの（枝など）がない場所に静かに移動し、収まるまで待ちましょう。
- ・ 標高が高い方を目指して移動しながら、すぐに自然の家に戻ってください。



【危険生物について】

○当所の周辺には、以下のような危険生物がいます。

- ・スズメバチ
- ・ヘビ（マムシ、ヤマカガシなどの毒を持つ種類）
- ・ウルシ（ヤマウルシ、ツタウルシ）
- ・ダニ類（マダニ、ツツガムシなど）

※今のところクマは発見されていません。

通常の研修活動では、これらによる被害はこれまでほとんど見られませんが、念のため、以下のポイントについて留意してください。

（１）スズメバチについて

- ・被害の予防…巣に近づかない、ハチを攻撃しない、頭部の保護（帽子、首にタオル等）
- ・応急処置 …①刺された部分に触らないようにします。
②針が残っている場合は、毛抜きで抜き取ります。
③すぐに病院に行きましょう。



※スズメバチは黒色にもっとも激しく反応するので、黒っぽい服や帽子はさげましょう。

※秋ごろ活動が活発になり、危険になります。

※ヘアースプレー、ヘアトニック、香水などの化粧品に敏感に反応します。

※スズメバチは下が見えにくいので、スズメバチが飛んできたらすぐにしゃがみ、ハチを刺激しないようにします。何があってもじっとしてハチが去るのを待つか、しゃがんだままゆっくりとその場を離れるしかありません。また、動くものを襲うので、手を振ったりハチを払ったりするのはとても危険です。

（２）ヘビ（毒のあるもの）について

- ・被害の予防…ヘビをつつかない、むやみに草むらに入らない。足の保護。（長靴、長ズボン等）
- ・応急処置 …①まず安静にし、かまれた部分（足・手）の曲げ伸ばしを行わないようにします。
②すぐに病院に行きましょう。

（３）ウルシについて

- ・被害の予防…植物を素手で触らない。腕の保護。（長袖等）
- ・応急処置 …①患部をアルコールでふき、すぐに冷やします。
②ひどい場合は病院へ行きましょう。



ツタウルシ

3枚に分かれたつやのある葉を持ち、地面や木をはっています。

秋には赤や黄色に色づき、とてもきれいです。触るとかぶれます。

（４）ダニ類について

- ・被害の予防…長そで長ズボン等で肌を露出しない、虫除けスプレー、森や草むらから帰ったら体をチェックする、など。
- ・応急処置 …無理に引き抜かず、すぐに皮膚科の病院へ行きましょう（無理矢理引きはがすとかえって危険）。



実物大です。
3～5mm 程度

15. 活動プログラム一覧表

※時期・定員はあくまでも目安です。これに該当しなくても、実施可能な場合もありますのでご相談ください。

《自然観察活動》			ねらい				
	プログラム名	定員	活 動 内 容	自然愛護	創造力	協調性	知識・技能
1	磯の生物観察 (磯ビンゴ)	200人	磯にすむ生物を探して観察します。見つけた生物でビンゴもできます。	○			◎
2	星空のつどい	200人	屋上で天体望遠鏡などを用いて星や星座の観察をします。	○			◎
3	種差の植物観察	80人	種差海岸を散策しながら、種差海岸特有の植物の観察をします。	○			◎
4	森探検	40人	周辺の自然林を散策しながら、野生動物の足跡やこん跡を探します。	○			◎

《野外活動》			ねらい				
	プログラム名	定員	活 動 内 容	自然愛護	創造力	協調性	知識・技能
5	磯遊び (かにつり)	200人	いろいろな磯の生物を探したり、かにつりをしたりすることを楽しみます。	◎			
6	タイヤチューブいかだ	120人	午前中にいかだをつくり、午後につくったいかだに乗って遊びます。	○		◎	
7	スチロバールいかだ	120人	午前中にいかだをつくり、午後につくったいかだに乗って遊びます。	○		◎	
8	サンドクラフト	120人	砂を海水で固め、固めた砂を削って「砂の像」をつくります。		◎	○	
9	追跡ハイク	200人	森や海辺の自然の中で、青色の矢印を追いかけてながらコースを歩きます。	○		◎	
10	「種差海岸」ハイキング	200人	「種差海岸」の自然の景観を楽しみながら、長い距離を歩きます。	◎			
11	わくわくウォークラリー	200人	連続指示図(コマ図)と道路を照らし合わせながら、コースを歩きます。	○		◎	
12	ビンゴ オリエンテーリング	200人	自然の家周辺にある関門を、地図にしたがって見つけながら歩きます。	○		◎	
13	ナイトハイク	200人	野外に設置された矢印を見つけ出しながら、夜の森の暗闇を歩きます。	◎		○	
14	ボンファイヤー	200人	たき火を囲みながら語り合ったり、レクリエーションを楽しんだりします。	○		◎	
15	火おこし	120人	マイギリ式の道具を使い、仲間と協力して火をおこします。			○	◎
16	アドベンチャーゲーム	100人	仲間と知恵を出し合い、協力しながら課題を解決します。			◎	
17	ネイチャーゲーム	60人	五感をつかい、様々なゲームを行いながら自然を感じます。	◎		○	
18	グラウンドゴルフ	50人	ボールをクラブで打ち、各ゴールへ何打でボールを入れられるかを競います。	◎			
19	frisbeeゴルフ	30人	frisbeeを投げ、各ゴールへ何投でfrisbeeを入れられるかを競います。	◎			
20	キャンプ	120人	仲間と協力し、野外でテント泊を体験します。	○		◎	○
21	野外炊事(屋内炊事)	150人	仲間と協力して野外や館内で食事づくりを行います。			◎	○
22	焼きいも	100人	仲間と協力し、さつまいもを焼いて食べます。			◎	
23	フライパンピザ	60人	ピザ生地をつくり、火をおこしてフライパンで焼いて食べます。			◎	
24	スノーチューブすべり	50人	雪上のコースを、タイヤチューブに乗ってすべり降ります。	◎			

《創作活動》

	プログラム名	定員	活動内容	自然愛護	創造力	協調性	知識・技能
25	葉っぱのしおり	50人	葉っぱや花を電子レンジで乾燥させ、ラミネートしてしおりをつくります。	○	◎		
26	焼板クラフト	120人	杉板を焼き、たわしや布で磨いてきれいな木目の板をつくります。	○		◎	○
27	竹けん玉	150人	のこぎりや小刀などの道具を使って竹けん玉をつくります。				◎
28	竹とんぼ	150人	糸のこぎりや小刀などの道具を使って竹とんぼをつくります。				◎
29	ぐにゃぐにゃ凧	150人	ポリシートと竹ひごを使って、簡単にあがる凧をつくります。	○			◎
30	シュリンクシートのストラップ	150人	シートに絵を描き、加熱して縮めてオリジナルストラップをつくります。		◎		
31	ネイチャーストラップ	150人	どんぐりなどの自然物を使って、ストラップをつくります。	○	◎		
32	割りばし鉄砲	150人	割りばしと輪ゴムを使って鉄砲をつくります。		○		◎
33	どんぐりアート	150人	どんぐりや木の枝をグルーガンで接着して作品をつくります。	○	◎		
34	石ころアート	150人	石をグルーガンで接着し、色をぬって動物や魚などの作品をつくります。	○	◎		
35	貝がらアート	150人	貝がらをグルーガンで接着し、色をぬって動物や魚などの作品をつくります。	○	◎		
36	動物マグネット	150人	木の枝を切って作った部品を使い、動物や昆虫などの作品をつくります。		◎		○
37	ペットボトルちょうちん	150人	ペットボトルを切ったり模様を付けたりにして、ちょうちんをつくります。		◎		

《伝承文化活動》

	プログラム名	定員	活動内容	自然愛護	創造力	協調性	知識・技能
38	せんべい焼き(屋外・屋内)	100人	せんべい生地を練り、焼き型を使ってせんべいを焼きます。			○	◎
39	こまの絵付け	150人	ペンでこまに絵付けをします。作った後は遊ぶこともできます。		◎		○
40	昔遊び	100人	めんこやこま、竹馬など、日本に古くから伝わる遊びを体験します。			◎	○

《館内活動》

	プログラム名	定員	活動内容	自然愛護	創造力	協調性	知識・技能
41	キャンドルファイヤー	160人	ろうそくの火を囲んで、語り合ったり、レクを楽しんだりします。		○	◎	
42	館内オリエンテーリング	100人	館内に設置された課題や写真問題を仲間と解決していく活動です。			◎	
43	館内デジカメ探偵団	70人	問題用紙の写真を見ながら館内にあるものを探し出しカメラで撮影します。			◎	
44	たねさしチャレンジ	80人	輪投げ、丸太切り、どんぐり運びなどの記録づくりの活動に挑戦します。			◎	
45	キンボールスポーツ	72人	キンボールを使って、チームで競い合います。			◎	
46	室内ペタンク	24人	チームでコミュニケーションをとりながら、協力してプレーします。			◎	

《参考プログラム》

・八幡馬の絵付け	・魚つり	・海藻のしおり	・ロープアスレチック
・スノークラフト	・棒パンづくり	・ミニえぼしづくり	・ツリーイング(木登り遊び)

16. 館内活動プログラム実施場所と人数一覧表

※数字が書いてあるところが活動可能場所です。数字は活動可能人数のおおよその上限となります。

※定員はあくまでも目安です。これに該当しなくても実施可能な場合もありますのでご相談ください。

※人数の前の印

○…活動をするのに最適な場所 ▲…活動はできるが、準備に時間がかかったり制限があったりする

《自然観察活動》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
2	星空のつどい（雨天）	—	180	40	40	—	

《野外活動の荒天時プログラム》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
15	火おこし	○120	120	—	—	▲20	▲他団体の出入りが少ない場合。
16	アドベンチャーゲーム	○100	▲60	—	—	—	▲できるプログラムは限られる。
17	ネイチャーゲーム	○60	▲60	—	—	—	▲できるプログラムは限られる。
19	フリスビーゴルフ	○30	—	—	—	—	
21	屋内炊事	▲120	▲120	○40	—	—	▲水道設備がないため。
22	焼きいも	▲100	▲100	○40	—	—	▲水道設備がないため。
23	フライパンピザ	▲60	▲60	○40	—	—	▲水道設備がないため。

《創作活動》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
25	葉っぱのしおり	—	50	○40	—	—	
27	竹けん玉	○150	150	40	—	—	
28	竹とんぼ	○150	150	40	—	—	プレーホール以外は飛ばすのは不可。
29	ぐにやぐにや凧	150	○150	○40	—	—	プレーホール以外は飛ばすのは不可。
30	シュリンクシートのストラップ	150	○150	○40	—	—	
31	ネイチャーストラップ	150	○150	○40	—	—	
32	割りばし鉄砲	150	○150	○40	—	—	
33	どんぐりアート	▲150	○150	○40	—	—	できるだけプレーホールはさける
34	石ころアート	▲150	○150	○40	—	—	できるだけプレーホールはさける
35	貝がらアート	▲150	○150	○40	—	—	できるだけプレーホールはさける
36	動物マグネット	▲150	○150	○40	—	—	できるだけプレーホールはさける
37	ペットボトルちょうちん	150	○150	○40	—	—	

《伝承文化活動》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
38	せんべい焼き（屋内）	90	90	○40	—	—	
39	こまの絵付け・こま回し	○150	150	▲40	—	—	▲自然観察室は絵付けのみ。
40	昔遊び	○100	100	—	—	▲20	▲玄関ホールでできる活動は限られる。

《館内活動》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
41	キャンドルファイヤー	○160	100	—	—	—	
42	館内オリエンテーリング	100	100	100	100	100	各部屋はスタート・ゴールのみに使用。
43	館内デジカメ探偵団	70	70	70	70	70	各部屋はスタート・ゴールのみに使用。
44	たねさしチャレンジ	○80	80	▲40	—	▲20	▲自観・玄関でできる活動は限られる。
45	キンボールスポーツ	○72	—	—	—	—	
46	室内ペタンク	○24	—	—	—	—	ディスコンを併用する場合は48人まで

《その他の活動》

	プログラム名	プレーホール	大ホール	自然観察室	小ホール	玄関ホール	備考
	会議・講演等	—	○180	40	40	—	※長テーブル3人がけで180人、2人がけだと120人が使用可能。
	学習会	—	○180	40	40	—	
	運動・レク	○100	100	—	—	—	

○活動場所について

プレーホール	学校の体育館にあたる施設。窓は補強されていないため、固いボールを使う競技は不可。やわらかいボールでのドッジボール・バレーボール、卓球、バドミントン、キンボールスポーツなどは可能。
大ホール	長テーブルとパイプイスが常時設置されている。最大200人までの会議・講義等が可能。テーブル・イスを寄せて各種活動も可（終了後は復元が必要）。
小ホール	長テーブルとパイプイスが常時設置されている。会議や学習会向き。じゅうたん敷きのため、火気を伴う活動、創作活動、運動等は不可。
自然観察室	学校の理科室にあたる部屋。実験用テーブルが7つあり、水道もある。創作活動や調理などに向いている。黒板もあるので、学習会等でも活用可能。
玄関ホール	施設の出入り口になるため、団体数が多い場合や、出入りする時間帯での活動はできない。館内オリエンテーリングや館内デジカメ探偵団のスタート・ゴールに活用できる。
※宿泊室	2段ベットが4台（ベット計8台）と畳敷きのスペースがある（一部の部屋を除く）。工作などの制作活動や飲食は禁止となっている。

○館内での飲食について

食堂での食事と館内炊事やフライパンピザなどの活動プログラム、来所初日の昼食以外、館内での飲食は基本的に禁止となっております（宿泊室でのおやつやペットボトル等での水分補給も禁止です）。飲食に関する疑問・質問は、日程作成時にご相談ください。

17. 貸し出し可能な主な物品・設備

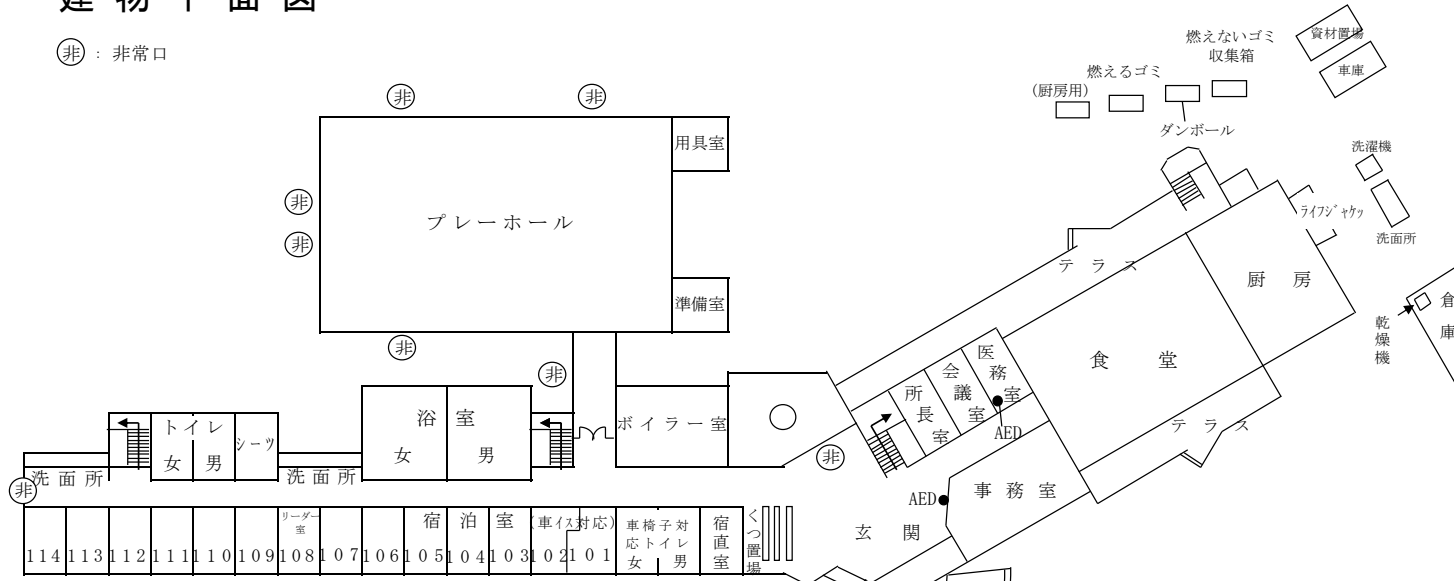
項目	利用できる物品・設備	項目	利用できる物品・設備
自然観察	○磯の生物観察用具 (23) ○天体望遠鏡 (4) ○フィールドスコープ (8) ○星座早見盤 (120) ○双眼鏡 (20) ○虫メガネ (40) ○ルーペ (50) ○捕虫網 (10)	館内活動	○キャンドルファイヤー用具 ○デジタルカメラ (15) ○デジカメ探偵団問題用紙 ○館内オリエンテーリング問題用紙 (低学年用あり) ○たねさしチャレンジ用具 ○ビブス (4色各10枚) 等
	等	キャンピング	○常設テント (13) ○ドーム型テント (15) ○毛布 (90) ○シュラフ (180) ○ランタン (※電池は持参してください) ○炊事用具各種…ライスクッカー、鍋、フライパン、包丁、食器 等
野外活動	○救命胴衣 (200) ○魚釣り用竿 (100) ○ボンファイヤー用具 ○オリエンテーリング用具 ○アドベンチャーゲーム用具 ○ネイチャーゲーム用具 ○サンドクラフト用具 (25) ○火おこし用具 (20) ○グラウンドゴルフ用具 ○frisbeeゴルフ用具 ○ペットボトルちょうちん (30)	視聴覚機器	○ポータブルアンプ&マイク (2) ○ビデオデッキ (1) ○DVDプレーヤー (1) ○液晶プロジェクター (2) ○CDプレーヤー (2) ○MDプレーヤー (1) ○フォークダンス等のCD ○ラジオ体操のCD 等
	等	ニュースポーツ	○インディアカ (2) ○ノルディックポール (65) ○室内ペタンク (2) ○ディスコン (2) ○ラダーゲッター (4) 等
創作活動	○工作用具 小刀、はさみ、ノコギリ、キリ、カッター、なた、ラジオペンチ、かなづち、ニッパー等 ○押し花セット (18) ○ラミネーター (2) ○電子レンジ (6) ○オーブントースター (6) ○グルーガン (50)	その他	○ゼッケン (200) ○バインダー (40) ○懐中電灯 (20) ○ハンドマイク (2) 等
	等	等	等
伝承文化	○せんべい焼きコンロ (6) ○屋内せんべい焼き用卓上カセットコンロ (30) ○せんべい焼き型 (30) ○昔遊び用具 タガ、お手玉、竹馬、めんこ、おはじき、こま、福笑い 等		

18. 周辺地図

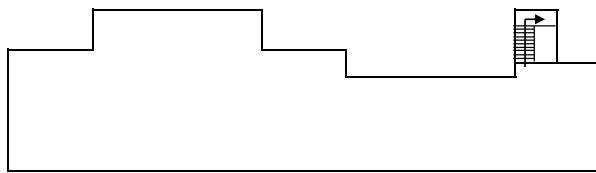


建物平面図

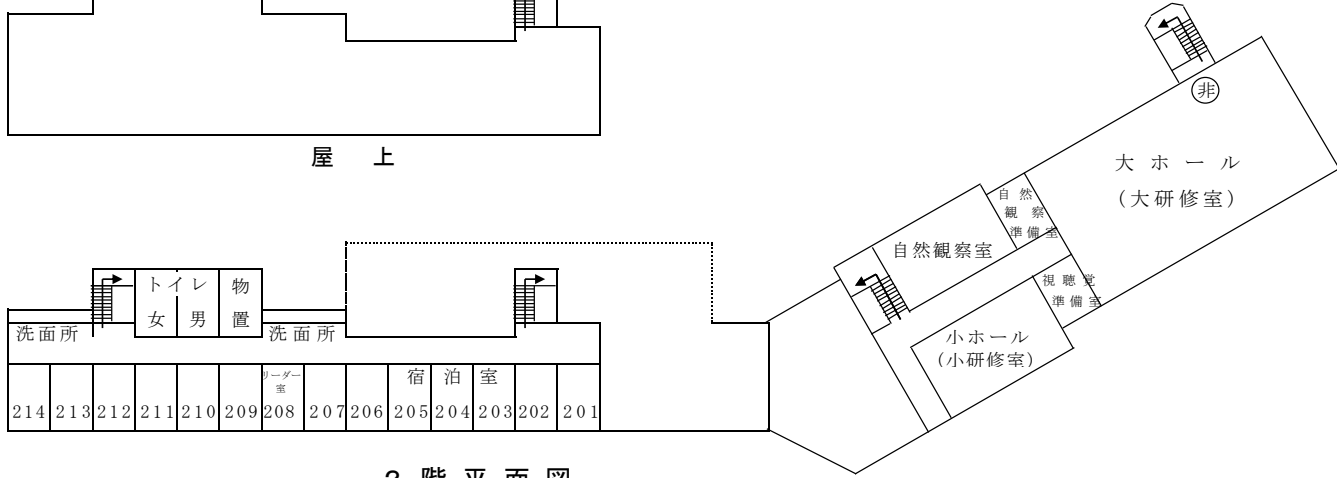
⊖：非常口



1階平面図



屋上



2階平面図